

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

真庭市教育委員会

1 調査の実施状況

(1) 調査の目的

子どもの体力が低下している状況にかんがみ、全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立つ。

(2) 調査対象学年

小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年、義務教育学校前期課程第5学年

中学校第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年、義務教育学校後期課程第2学年

(3) 調査内容

ア 実技に関する調査（新体力テスト8種目で実施）

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び
ボール投げ（小学校はソフトボール、中学校はハンドボール）

イ 質問紙調査

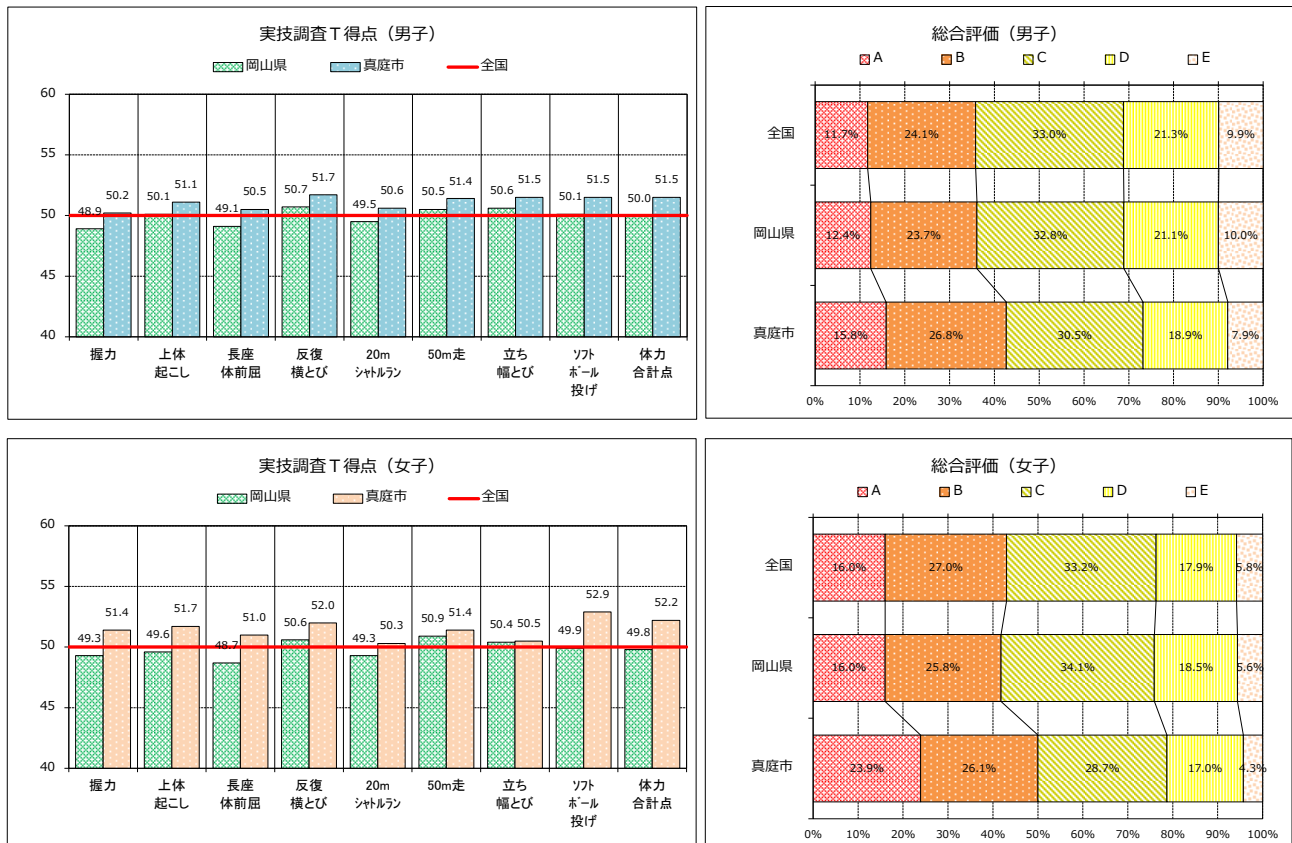
児童生徒：運動習慣、体育授業等の項目

学 校：子どもの体力向上に係る取組等に関する項目

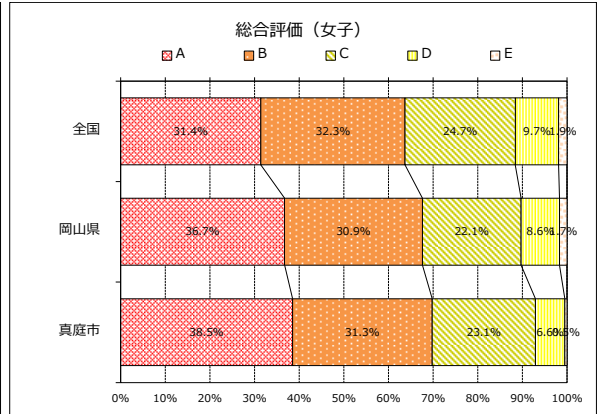
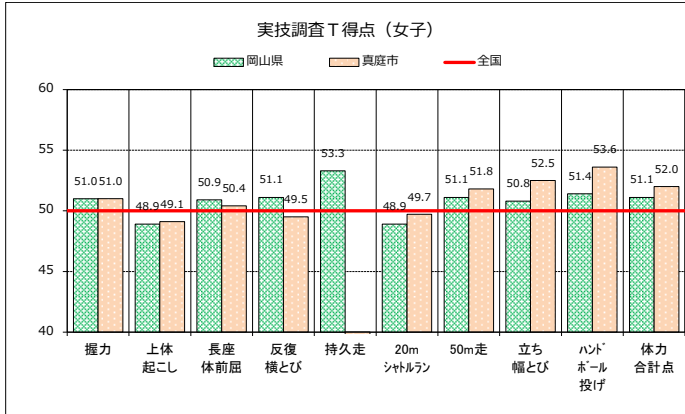
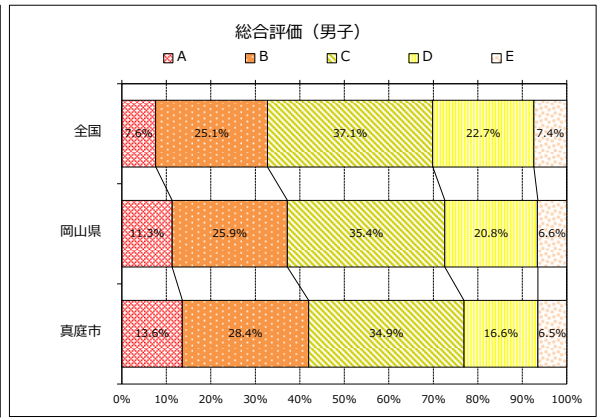
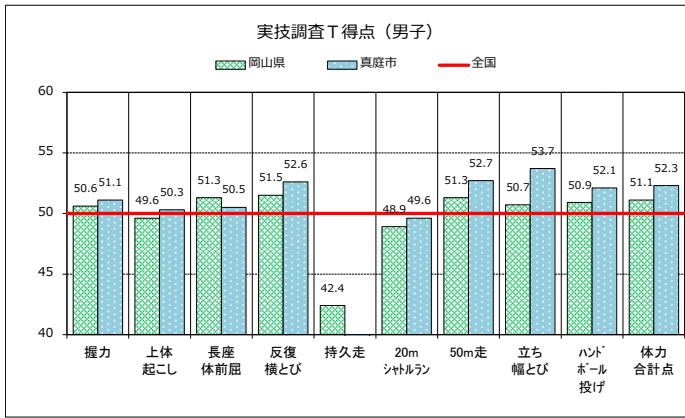
2 実技集計

(1) 令和元年度実技調査T得点（全国平均を50とした時の真庭市児童生徒の得点と総合評価）

【小学校】

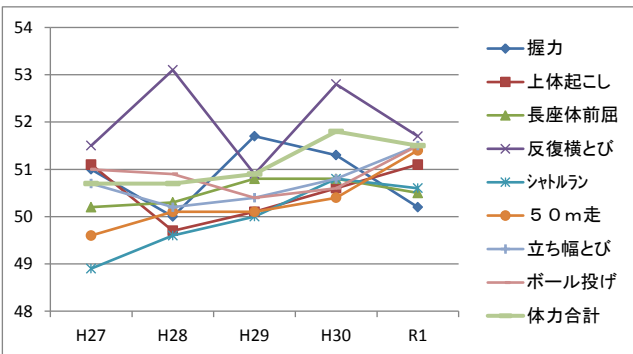


【中学校】(持久走と20mシャトルランは選択となっており、真庭市は20mシャトルランを実施)

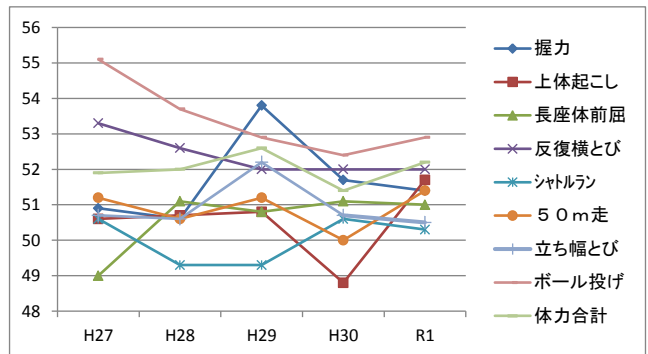


(2) 実技調査T得点の経年変化(全国平均を50としたときの、真庭市の実技得点の経年変化)

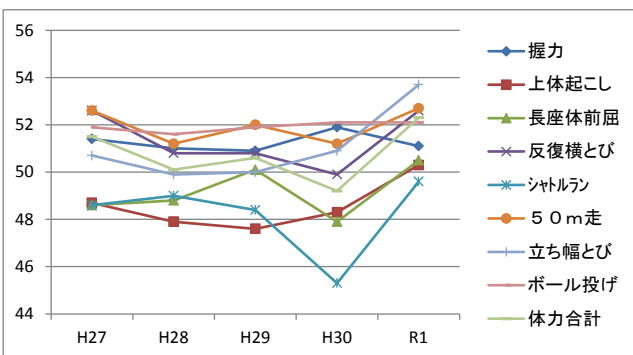
【小学校男子】



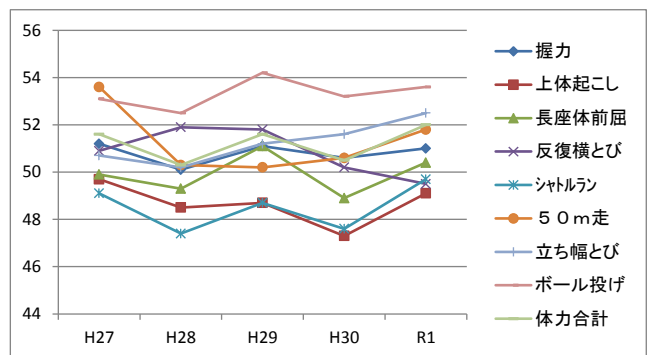
【小学校女子】



【中学校男子】

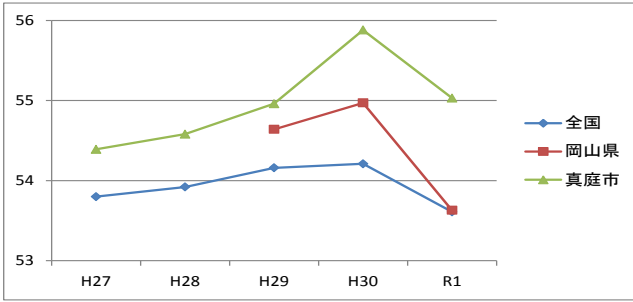


【中学校女子】

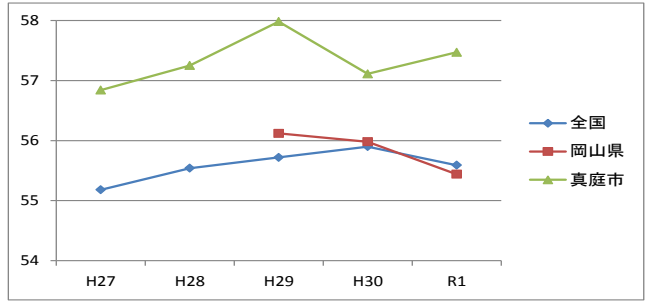


(2) 体力合計得点の年次推移

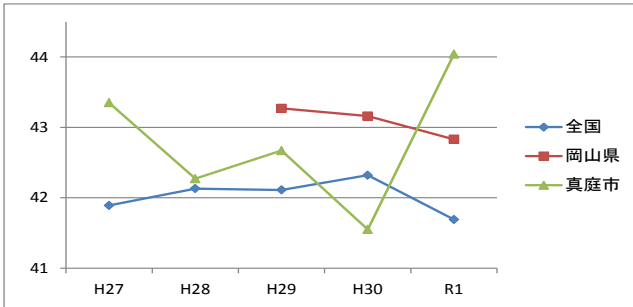
【小学校男子】



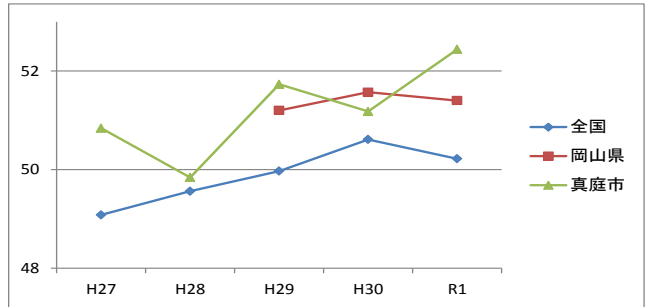
【小学校女子】



【中学校男子】



【中学校女子】

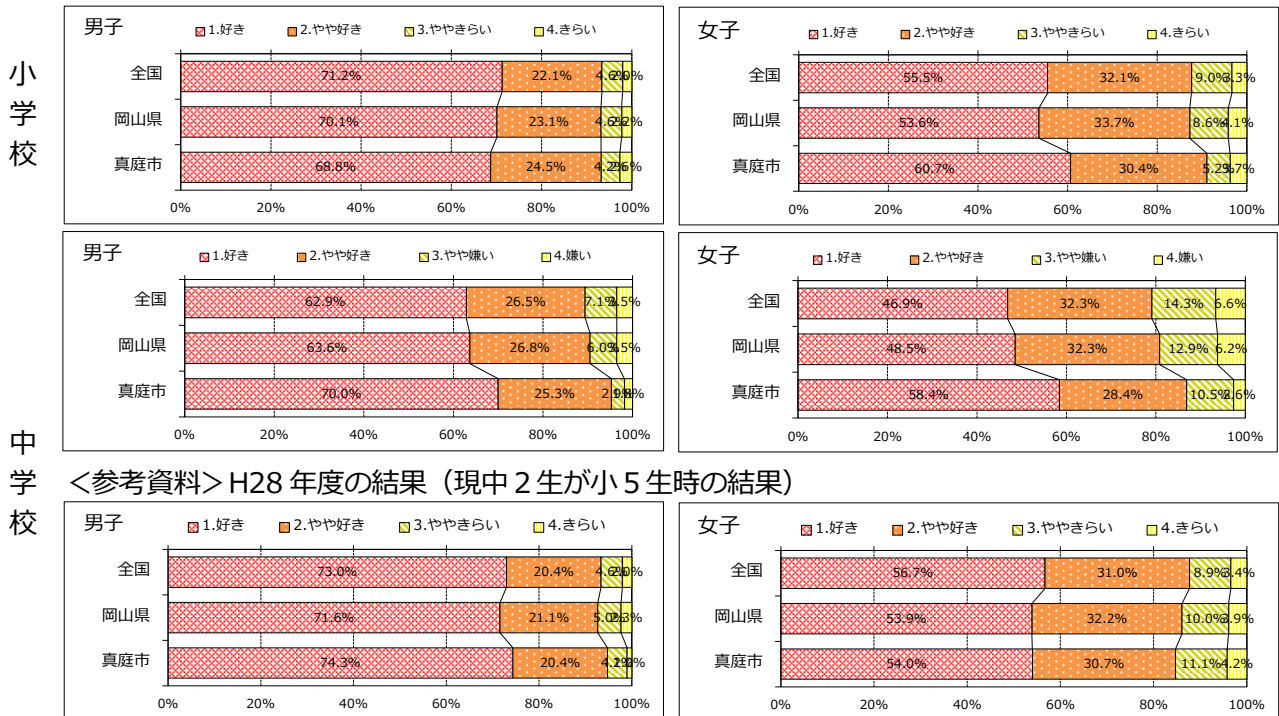


※岡山県は、岡山市を除いた値（H29 から国が公表方法を変更）

小学校では、全ての種目で全国平均を上回っています。中学校でも、全国平均を上回る種目が多くなっていますが、男子は、20m シャトルラン、女子は、上体起こし、反復横跳び、20m シャトルランで全国平均を下回っています。体力合計得点では、小学校、中学校とも全国平均値を上回っています。経年変化から、年度によって差はあるものの、真庭市の児童生徒の体力は全国、岡山県と比べて高い状態にあるといえます。

3 児童生徒質問紙

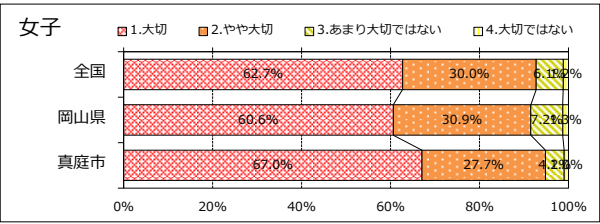
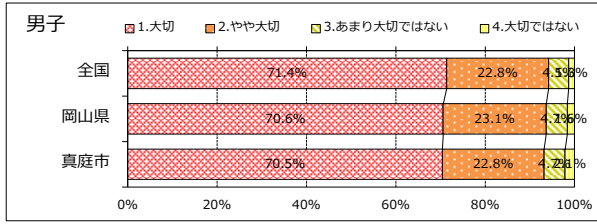
(1) 運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか。



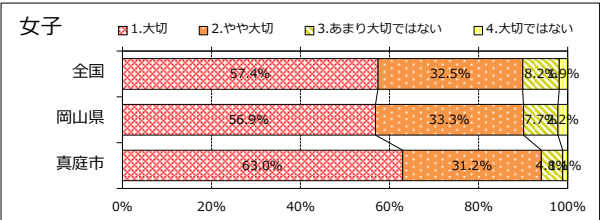
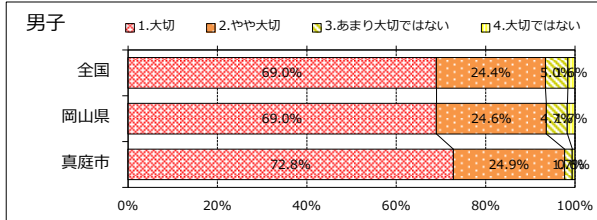
小・中学校とも、運動・スポーツが好きな割合が全国平均と比べ高くなっています。現中学2年生が、小学校5年生の時の結果と比較すると、運動・スポーツが好きな生徒の割合が高くなっています。

(2) あなたにとって運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツは大切なものですか。

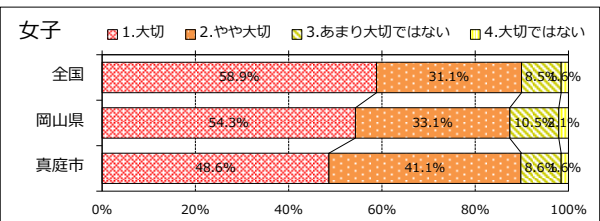
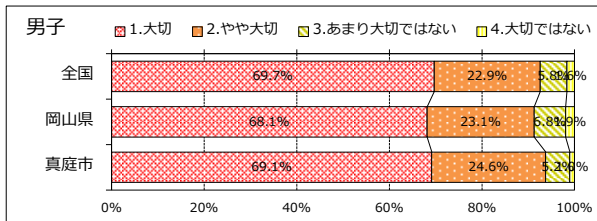
小学校



中学校



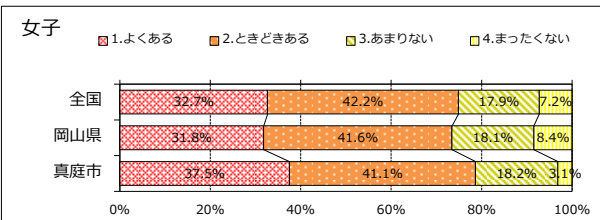
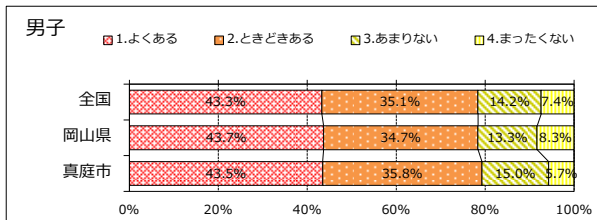
<参考資料> H28年度の結果（現中2生が小5生時の結果）



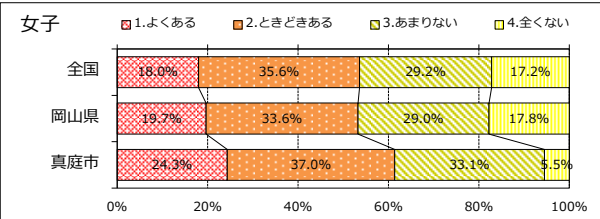
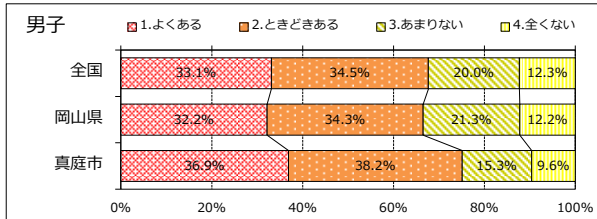
小・中学校ともに、自分にとって運動が大切なものであると考えている児童生徒の割合が、全国平均に比べて高くなっています。

(3) 放課後や学校が休みの日に、運動部や地域のスポーツクラブ以外で、運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることがありますか。

小学校



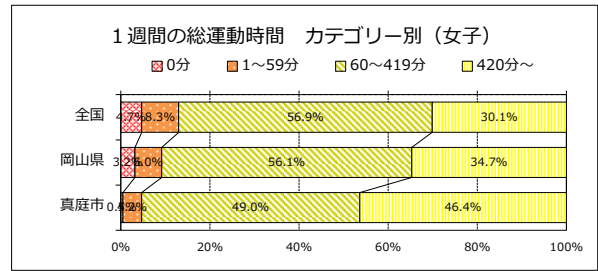
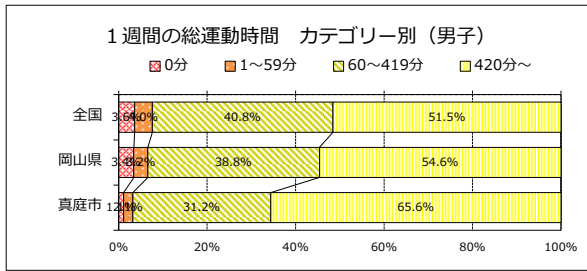
中学校



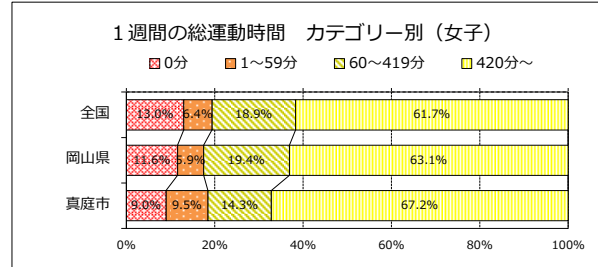
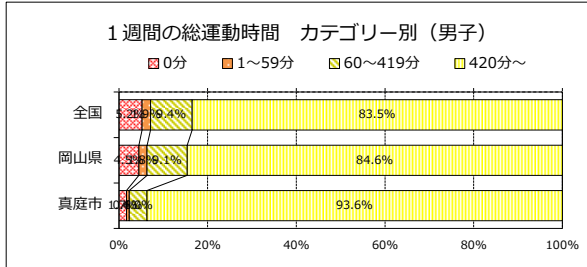
小・中学校ともに、運動部やスポーツクラブ以外で、運動やスポーツをする割合が、全国平均よりも高くなっています。

(4) 1週間の総運動時間

小学校



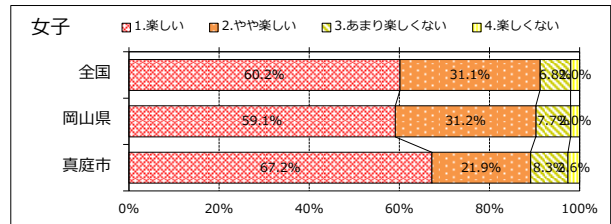
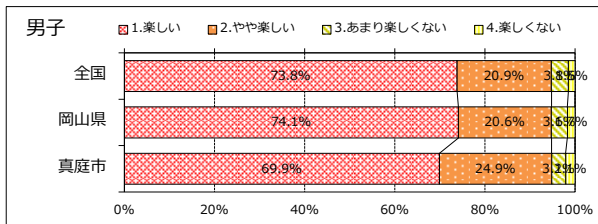
中学校



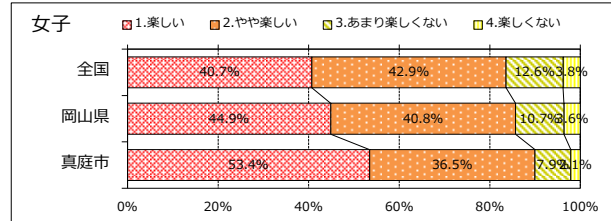
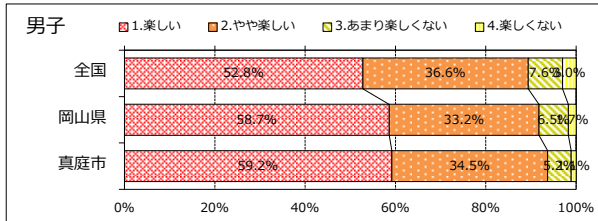
小・中学校ともに、1週間の総運動時間は、1時間未満の児童生徒の割合が低く、7時間以上の割合が高くなっています。

(5) 体育（保健体育）の授業は楽しいですか。

小学校



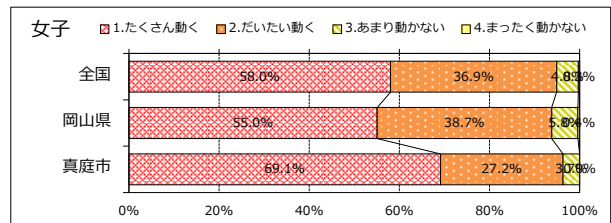
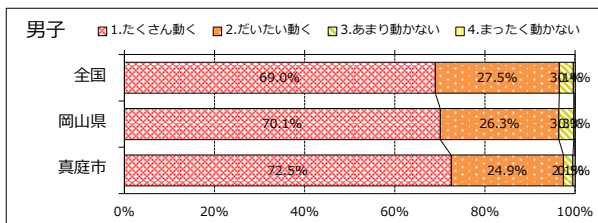
中学校



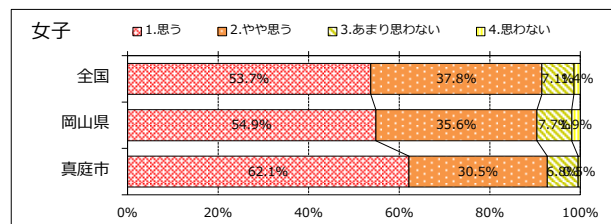
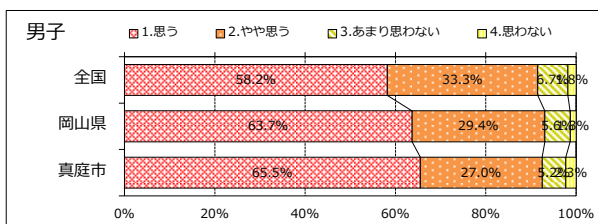
小・中学校ともに、肯定的（楽しい・やや楽しい）な回答の割合が高くなっています。特に、中学校において、授業が「楽しい」と感じている生徒の割合が、全国平均に比べて高くなっています。

(6) 体育（保健体育）の授業では、たくさん動きますか。

小学校



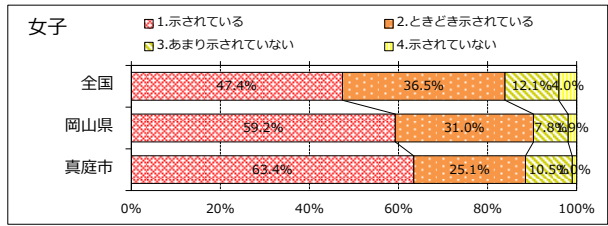
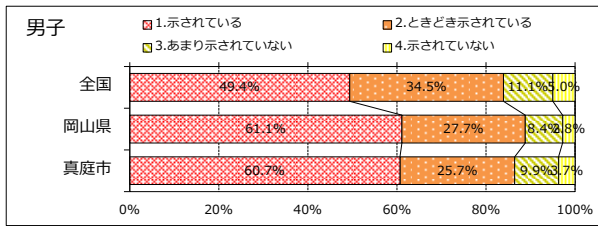
中学校



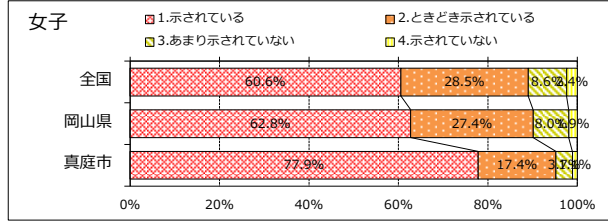
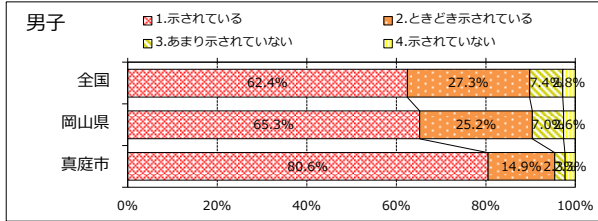
小・中学校ともに、肯定的（思う・やや思う）な回答の割合が高くなっています。

(7) 体育の授業では、授業の始めに授業の目標(目当て・ねらい)が示されていますか。

小学校



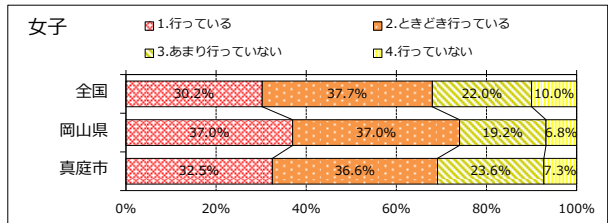
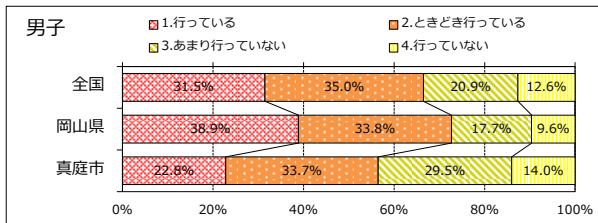
中学校



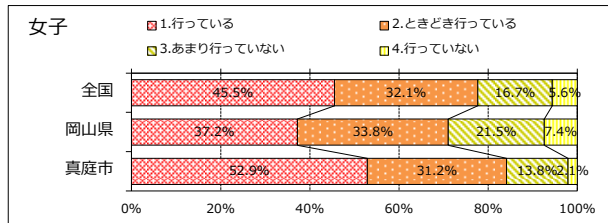
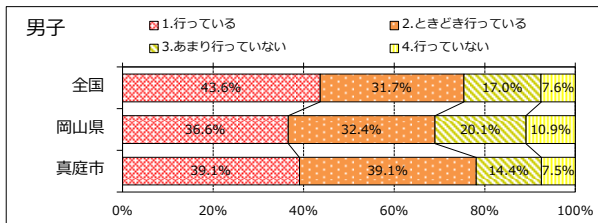
小・中学校ともに、目当て・ねらいが示されている割合が、全国平均に比べて高くなっています。

(8) 体育の授業では、授業の最後に今日学んだ内容を振り返る活動を行っていますか。

小学校



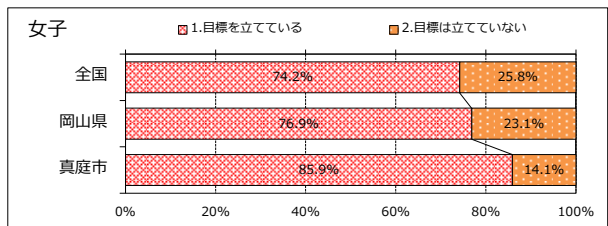
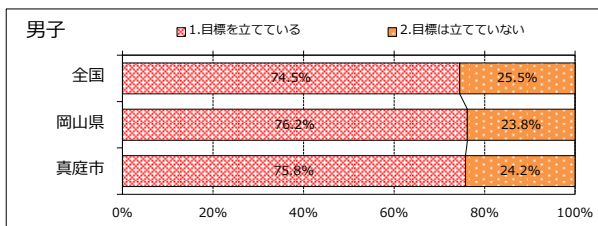
中学校



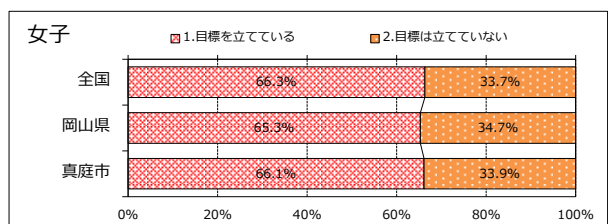
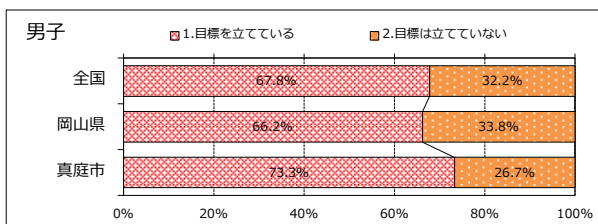
小学校では、振り返る活動を行う割合が全国平均に比べて低くなっていますが、中学校では、高くなっています。

(9) 体力テストの結果や体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てていますか。

小学校



中学校



小・中学校ともに、体力向上に向けて目標を立てている児童の割合が、全国平均に比べて同程度、もしくは高くなっています。

4 調査結果を受けて

真庭市における「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、多くの実技種目で全国平均を上回る結果となりました。これまで課題のあった種目も改善の方向にあります。その中で、中学校における「上体起こし」、「20m シャトルラン」と「長座体前屈」は、全国平均より低い結果となっています。上体起こしは、筋肉が力を出したり持続し続けたりする能力を、20mシャトルランは、全身で運動を続ける能力を測定しています。これまでの課題は改善しつつあるものの、「動きを持続する能力を高めていくこと」に取り組んでいくことが必要です。

課題に向けて取組を推進するためには、まず、児童生徒一人一人が現状を認識することからスタートする必要があります。各校全学年で実施している新体力テストの結果を基に児童一人一人が自らの体力の現状を認識し、向上に向けた目標そして具体的な取組を設定し、確実に実践していくことが必要です。そして、その取組の中で、児童生徒が自らの体力向上を実感することができるようにし、次の取組への意欲を生み出すといった好循環作り出していくことが大切です。

そのために、これまでの取組を継続していきます。

【学校での取組】

◇授業改善を推進していきます

- ・「めあて」と「ふりかえり」のある授業実践を通して、児童生徒の運動習慣の基盤を確立していきます。児童生徒一人一人が目標を持ち、目標達成に向けて進んで運動に取り組むことができるようにすること、そして、達成できたかどうか振り返り達成感を味わえるようにすることができます。
- ・体育の授業内における運動量を確保できるよう、授業を工夫していきます。

◇体育の授業以外における運動時間を確保します

- ・学校行事として体育集会等（マラソン、なわとび、球技など）を実施、休み時間を活用して全校遊び、全校マラソンなどを実施、県、市や各地域の体育行事への参加啓発など、各校の実態に応じた取組を推進していきます。

これらの取組については、各学校が実態に応じてすでに実施しています。現在実施している取組を継続したり、また改善しよりよい取組にしたりしながら、児童生徒の体力向上を図っていきます。

【ご家庭等へのお願い】

◇体力の現状について語り合ってください

- ・子どもたちと一緒に新体力テストの結果等を活用し、体力の現状について語り合ってください。そして、体力向上に向けた目標を設定したり、実際に運動をしたりしながら運動の習慣化を図っていただきたいと思います。

◇積極的に体を動かす機会をつくってください

- ・今日の社会では「時間」「空間」「仲間」の「3つの間」が減少しているといわれています。子どもたちを取り巻く環境の現状を把握していただき、積極的に体を動かす機会をつくっていただきたいと思います。県、市や各地域で企画されている運動やスポーツに関する行事等へ参加するというのも一つの方法です。体を動かす機会として積極的に活用していただきたいと思います。

5 おわりに

子どもたちのよりよい現在と未来のために、「確かな学力と豊かな心を備え、夢をもって自ら学ぶ子どもの育成」を真庭市のめざす学校教育として掲げています。そして、めざす子どもの姿に向けて、体力は基盤になると考えています。体力の向上に向けて取組を進める中で、子どもたちが、自らの体力を知り自らの体力を高めていく力を育成していきたいと考えています。

その取組の中心は学校ですが、子どもに関わるすべての人の協力体制を広げていきたいと思っております。体力向上につきましても、市民の皆様のご理解とご協力を改めてお願いいたします。